

大震災・復興ニュース(第73報)

平成24年9月6日
仙台地方振興事務所水産漁港部

1 水産業復旧・復興に向けた対応状況(国及び県全体の動き)

宮城県内の水産物の放射性物質測定結果について

- 1 測定年月日 平成24年8月29日～9月4日
- 2 測定分析機関 宮城県, (公財)海洋生物環境研究所, (株)総合水研究所, (財)日本分析センター, (株)いであ, (独)水産総合研究センター中央水産研究所, (財)日本食品分析センター, (財)日本冷凍食品検査協会
- 3 測定及び対応結果

栗原市二迫川・三迫川のイワナで基準値を超える放射性セシウムが検出されました。これらについては、それぞれ5月28日、5月24日付けで国により出荷制限が指示されています。

水産物(漁獲日 平成24年8月20日～8月31日)

(単位:ベクレル/kg)

種別	漁獲場所	放射性セシウム	種別	漁獲場所	放射性セシウム
マアナゴ	追波湾沖	不検出	メカジキ	北海道・青森県沖太平洋	1.6
マダラ	宮城県沖	5.6	アユ	大川(気仙沼市)	2.9
マダラ(幼魚)	宮城県沖	2.0	アユ	一迫川(栗原市)	6.7
サトウダラ(幼魚)	宮城県沖	不検出	イワナ	二迫川(栗原市)	150
IVイアサメ	宮城県沖	不検出	イワナ	三迫川(栗原市)	410
アカガレイ	宮城県沖	不検出	アユ	鳴瀬川(加美町)	2.3
ヒラメ	仙台湾	3.8	マダラ	宮城県沖	2.3
アカガイ	仙台市蒲生沖	不検出	ヒラメ	花淵浜沖	1.7
ヒラメ	東松島市浜市沖	5.6	マダラ	宮城県沖	2.6
チダイ	金華山沖	1.1	スズキ	仙台湾	3.7
ゴマサバ	三陸南部沖	不検出	アイナメ	松ヶ浜沖	1.7
マルソウダ	三陸南部沖	2	ヒラメ	亶理荒浜沖	2.9
ブリ	三陸南部沖	3.8	マコガレイ	亶理荒浜沖	1.1
ゴマサバ	三陸南部沖	0.55	イシガレイ	亶理荒浜沖	2.5
マアジ	三陸南部沖	8.3	アイナメ	亶理荒浜沖	1.5
ヨシキリザメ	北海道・青森県沖太平洋	1.6	アユ	登米市(二股川)	不検出
マカジキ	北海道・青森県沖太平洋	1	アユ	大崎市(江合川)	3.6

放射性物質値は漁獲日における値を示す。

マダラの出荷制限が一部解除

8月30日(木)、5月2日から国の指示で出荷制限されていた宮城県沖全海域のマダラについて、指示の一部が変更されました。

変更内容は、1尾の重量が1kg未満のマダラについて出荷制限が解除されるというものです。

1尾の重量が1kg以上のマダラについては、引き続き出荷制限の対象となります。

2 管内の復興に向けた動き

<水産漁港部からのお知らせ>

「みやぎ食材伝道士」現地バスツアー

9月4日(火)、「みやぎ食材伝道士」等料理人の方々に生産現場で生産者と交流を深めてもらうため、現地バスツアー(水産コース)が開催されました。

ツアーに参加した食材伝道士



これは、みやぎの食材の利用拡大を推進することを目的としたもので、ツアーでは桂島のカキ養殖場・カキ処理場を見学、水産業の復興を確認したことで「地域食材の活用とPRに積極的に取り組みたい」との意見が聞かれました。

「みやぎ食材伝道士」とは

県がその技術を認定した農業者や漁業者等のもとで、料理人が生産作業を実体験し、生産者と共に作業の苦労や収穫の喜び等を分かち合い、生産者の食材にかけた熱き「想い」を消費者に伝える「食材の語り部」として認定された方々のことです。

作業体験した品目数によって、認定クラスが一つ星から三つ星まで分かれています。

知事によるみやぎの復興現場訪問

9月4日（火）、知事が被災した企業を直接激励するため、ワカメの乾燥加工を行う理研食品(株)（多賀城市）と、蒲鉾製造・体験観光を行う(株)笹の浦（塩竈市）を視察し、活発な意見交換が行われました。

理研食品では震災前の5割まで出荷が回復、笹の浦は現在、多い日には30台以上の大型観光バスを受入れているとのことでした。



（株）笹の浦での様子



提案されたメニュー

<トピックス>

「浦戸諸島の復興・活性化協議会」による試食会

8月31日（金）、東北農政局の事業を活用した「浦戸諸島の復興・活性化協議会」主催による地域活性化のための調理メニュー試食会が開催されました。

今回はノリ、アサリ、アナゴを素材にしたメニューが提案され、浦戸諸島の名物メニューにしていくための意見交換が行われました。

今後は、モニターツアーやカキを素材にしたメニュー提案が行われる予定です。

香川と宮城の漁業者が意見交換

9月3日（月）～5日（水）、香川県の高松市漁業協同組合連合会（以下、「高松市連」）の漁業者16名が来県し、大災害に対する備えと対策について、巨理と宮戸の漁業者と意見交換を行いました。

巨理では、運営委員長をはじめ底曳網、刺網、小型定置網の漁業者と、震災の体験をもとに「漁船の沖出し」「被災後に回収できた物資・施設」「復興への取組み」などについて多くの意見を交わしました。

中でも、「あらかじめ避難方法を家族内で取り決めておく」という意見は、高松市連の漁業者に大変参考となったとのことでした。



巨理での意見交換

豊漁祈願祭

9月5日（水）、塩竈神社において県漁協主催の豊漁祈願祭が開催されました。

巫女による釣りを模した神楽などが行われた後、県水産技術総合センターより気象海況の見通し、県水産産業基盤整備課よりガレキ撤去事業についての情報提供がありました。

「大漁満足、海上安全」の神楽

